

..... 編集後記 .....

◆ 11月を迎え、めっきりと寒くなってきました。北海道と沖縄とでは平均気温で20℃近い差があるようですが、北の北海道では今頃、雪の景色が見え隠れしていることでしょう。今月号は須藤氏・有田氏・藤橋氏による、そんな北海道の海岸の浜と砂の特集です。といっても、雪の舞う時期の北海道ではありませんが、広大な北海道ですから、その浜も広く、特集号にまとめました。本文は5つに分かれており、苫小牧から反時計回りにぐるりと巡っていきます。初めのページから読んで結構ですし、途中の気に入った地域の海岸から読んでいっても構いません。長い海岸線をたどる大作ですので、鼻を近づけると誌面から潮の香りが漂ってくるかも……。

◆ 地質学の側面からいうと、粒径が2mmから1/16mmの間の岩石粒子を砂といい、2mmより大きいと礫、1/16mmより小さいとシルト・粘土となりますよね。そんなことは皆さんには釈迦に説法で、ここでいうまでもないことです。でも、数10倍も大きさの違う粒子の集合体では、その一粒一粒の顔つき、組成や混合割合で、全体の色合いや風格がかなり違ってきます。そんな様子を、北海道の広大な海岸を巡って詳しく紹介しています。いざ、広大な北海道の海岸を、一緒に旅して回っていきましょう。

◆ 最初は苫小牧から襟裳岬を經由して広尾、十勝川河口まで、日高山脈を回るように巡っていきます。次には釧路から根室へと、釧路平野と根釧原野を回るように北海道の東部の浜と砂の紹介です。続いては、網走から宗谷岬までオホーツク海に沿って旅していきます。これからはまさに「流水の海」というにふさわしい時期になっていくでしょう。宗谷岬を南下して、

天塩川河口付近から留萌を経て石狩川河口まで来ると、旅も後半です。日本海に面した海岸を紹介していきます。最後は石狩湾から積丹半島をぐるりと回って噴火湾に移動し、室蘭を經由して出発地の苫小牧まで戻ります。海に見える景色を、海岸の、砂浜の、そしてかわいい砂粒達の顔つきを、頭に想像しつつ読み進んで下さい。4編目には北海道の砂を総括した紹介もしていただいています。

◆ 砂といえば、「砂を噛むような……」とか「砂上の楼閣」、「後足で砂をかける」、「こんなにやくは身体の砂払い」といった譬えや諺のようにマイナスイメージがあるのですが、一方で砂が作る景色については、「白砂青松」の如く古くから日本人の心に強く印象づける美を醸し出してきました。本特集号における北海道の砂浜の風景も、様々な美を見せています。砂がつく文学では、松本清張の「砂の器」や安部公房の「砂の女」等が有名ですが、石川啄木の歌集「一握の砂」では、万感の思いが砂に込められていることでしょう。本誌の砂や砂浜も、皆さんに訴えかけているものがきっとあることでしょう。

◆ 最後に、砂を使ったプラス思考のことわざを見つけました。「砂長じて巖となる」、「Many sands will sink a ship. (砂もたくさん集まれば船を沈めてしまう：塵も積もれば山となる、と類似)。どんなものでも一長一短、表裏があって、砂の特質もプラスに働く一面を持っています。

◆ 最後は、中川氏が岩石記載に役立つ教科書を紹介しています。来月号は一般投稿記事の構成で予定しており、多彩な誌面とするためにも、皆様方からの多くの投稿文をお待ちしております。(金井 豊)

地質ニュース編集委員会

委員長：金井 豊

事務局委員：宮内 渉

委員：藤原 治・杉原光彦・高木哲一・森尻理恵・七山 太・酒井 彰・高橋裕平

連絡先：地質調査総合センター

地質ニュース編集委員会事務局

〒305-8567 茨城県つくば市東1-1-1

Tel. 029-861-3754 Fax. 029-861-3746

E-mail: g-news@m.aist.go.jp

地質ニュース	第651号	2008年	11月号
	定価 ¥785 (本体価格 ¥748)	〒実費	

2008年11月1日 発行

編集 産業技術総合研究所

発行人 株式会社 実業公報社

代表者 林 光生

発行所 株式会社 実業公報社

東京都千代田区九段北1の7の8 〒102-0073

Tel. (03) 3265-0951 Fax. (03) 3265-0952

http://www.jitsugyo-koho.co.jp

E-mail: jk@jitsugyo-koho.co.jp

振替口座 00110-6-32466

麹町局私書箱第21号



表紙右下のロゴについて：地質調査総合センターは、国際惑星地球年（IYPE）に賛同し、活動を支援しています。

●本誌は東京都の霞ヶ関政府刊行物サービスセンターに常備してあります。また、最寄りの書店でも注文できます。

●地質ニュースに関するご意見は編集委員会へ

©2008 Geological Survey of Japan